

2010-8

学 会 通 信

平成 22 年 8 月 1 日

NO.69

工業経営研究学会

Association for the Study of
Industrial Management (Japan)

第 25 回全国大会（台湾・東海大学）に向けて

工業経営研究学会会長 貫 隆夫

初めて海外で開催される全国大会（8月27日・28日）の準備が開催校である台湾・東海大学の劉仁傑教授を中心に精力的に進められています。すでにご案内のように統一論題は「アジアのものづくり経営と日台協働」ですが、この他に計30本の自由論題報告が用意されています。グローバリゼーション研究分科会による例年の海外工場視察とセットになっていることもあり、大会への参加申し込み数も順調に増えているようです。台湾からの参加者も多数になりそうですので、日本からの参加者も合わせて活気のある大会になることと期待しています。申し込みがまだの会員は是非ご検討ください。

工業経営研究学会の実質的な創設者である森俊治先生が今年3月20日にご逝去（享年84歳）され、7月17日に西日本部会（黒沢敏朗会長）主催で森俊治先生追悼特別研究会と偲ぶ会が大阪ガーデンパレスで開催されました。西日本部会から別途報告があるかと思いますが、当日は森健一会員の報告「森俊治先生を偲んで」を通して、研究開発部門を生産の出発点とし、研究開発機能をスタッフではなくラインとして位置づけることで、革新を持続する生産経営のあり方を論じた森俊治先生の理論の先進性が改めて確認されたように思われます。宗像正幸会員の司会によるシンポジウム「森俊治先生と工業経営研究学会の誕生」にはパネリストとして鈴木幸毅会員、片岡信之会員、森川譯雄会員が加わり、本学会の設立経過とともに森先生の人間的側面も含めて興味深い話が披露されました。第25回の大会を控え、いわば四半世紀という節目の年に本学会の原点を振り返る機会を作って頂いた西日本部会の会員諸氏、とりわけ呼び掛け人としてご尽力頂いた森健一・羽石寛寿・地代憲弘の諸先生に感謝いたします。

昨年の全国大会（北海道、道都大学）の際、実行委員長を務められた山本孝会員は、「米国をスタンダードとするグローバリズムから多極化し、再び工業経営の世界地図が描き変えられようとしている局面において、本学会が改めて研究の機軸を探（る）」ことの重要性を強調されました。先進国市場の飽和化に伴い、生産拠点のみならずターゲットとする消費市場も先進国から途上国へ、さらに富裕層・中間層から世界人口の約7割を占める40億人の年間所得3000ドル以下の貧困層へと軸足が移ろうとしています。まさに「工業経営の世界地図が描き変えられよう」としています。台湾・東海大学を会場とする今年の全国大会は、昨年の大会に引き続いて、新たな工業経営研究の機軸について議論する良い機会となることと思います。

第 25 回全国大会のご案内

盛夏の頃、会員の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

第25回全国大会（2010工業経営研究学会国際大会）を、来る8月27日（金）～28日（土）の2日間、台湾台中市の東海大学において開催致します。大会プログラムにて案内させていただいているように、統一論題『アジアのものづくり経営と日台協働』について、中国市場と日台連携に業績を挙げている友嘉実業の陳向榮総経理による特別記念講演に加えて、表秀孝（長野大学）、中山健一郎（札幌大学）、呉銀澤（育達商業大学）の3名の先生方にご報告していただきます。東アジ

アにおける日台企業提携の現状と発展についてご議論していただくことの意義と必要性はますます高まっているものと考えています。また、自由論題はバラエティーに富んだ10セッションで合わせて30件となっています。多くのご報告を賜り、盛大な大会となることが期待され、実行委員一同、深く感謝しております。

中間報告にもなりますが、既に90名を超える日本からの参加が申し込まれており、100名という目標が達成されそうです。まだお決めになっていない方々におかれましては是非ともご参加の申し込みをいただきたいと思っております。

実行委員会では、産業界の有識者や日本留学経験者を対象として、地元台湾からの参加も呼びかけております。既に20社のスポンサー企業の参加を受け付けており、地元からも100名以上の参加者となるように進めています。先生方の中で台湾にてご活躍中の教え子などを大会に参加させたいとお考えをお持ちの場合には、大会の案内状をお送りしますので、大会事務局までお知らせ下さい。

なお、本大会は国際会議としての事前申込制と会費振込制を取っておりますので、大会当日の申し込みはお引き受けできません。皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

会員の皆様方のご健勝を祈念し、台湾での再会を期待しつつ、ご案内申し上げます。

- 報告者各位の「大会予稿集」原稿：7月31日（土）必着
- 大会参加申込と振込の締め切り：8月18日（水）
（お盆休みを考慮に入れたものであり、会員は12,000円、非会員は15,000円です）
- ご家族が懇親会のみご参加の場合：一人5,000円、8月18日までに振込
- 工場見学は特定の組に集中していますので、日本側の委員会メンバーと相談した結果、工作機械組と自転車組とに分け直し、近日中に工場見学希望の方々に再確認することになりましたので、ご協力願います。

2010 工業経営研究学会国際大会 (第25回全国大会) 実行委員会

委員長 劉仁傑 (東海大学 台湾)

呉 銀澤 (育達商業大学 台湾) 蔡 錫勳 (淡江大学 台湾) 張書文* (東海大学 台湾)
中山健一郎* (札幌大学 日本) 西 剛広 (明治大学 日本) 野村重信 (愛知工業大学 日本)
楊 英賢 (嘉義大学 台湾) 黎 立仁 (台中技術學院 台湾) 李 捷生 (大阪市立大学 日本)
劉 慶瑞 (輔仁大学 台湾) 劉 宗其 (成功大学 台湾) (五十音順)

* 大会プログラム担当

大会 E-mail : thuim138@gmail.com ホームページ : <http://asimj2010.twbbs.org/>

森俊治先生追悼特別研究会と偲ぶ会の開催

本学会の創設に深く関わられ、第2代会長を務められた森俊治名誉会員は、本年3月20日にご逝去されました。享年84歳でした。

西日本部会では、森俊治先生のご業績に感謝し、また本学会の創設の経緯などを再度確認し、先生を追悼するために特別研究会を企画いたしました。(呼びかけ人: 森健一・羽石寛寿・地代憲弘)

特別研究会は7月17日(土)午後1時半より大阪ガーデンパレスにて、30名を超える会員の参加のもと開催されました。

最初に、貫隆夫学会長から開会のご挨拶を頂戴いたしました。

続いて森健一会員(大阪府立大学での教え子でもあり、府立大学・滋賀大学ではともに教鞭を執られました)から追悼講演があり、森俊治先生のご研究上の、また本学会創設時の様々なエピソードを交えながら、森俊治先生のご研究の系譜についてのお話がありました。

その後、宗像正幸会員(本学会の創設に関わり、森俊治先生とのご親交も深かった)の司会でパネルディスカッションが行われました。パネリストは、本学会第3代会長として森俊治先生か

ら学会の運営を引き継がれた鈴木幸毅会員、本学会の創設に深く関わられた片岡信之会員、森俊治先生と広島修道大学とともに教鞭を執られ、また副会長として本学会事務局の整備に注力された森川譚雄会員、それに追悼講演の森健一会員の4氏でした。

森俊治先生のライフワークである『研究開発』・『研究開発管理論』についての研究ローカスをたどるとともに、本学会創設にかかる裏話なども紹介されました。フロアからも春山丈夫会員や竹内準治会員、野村重信会員など多くの会員からの発言があり、活発な論議の中、風間信隆副会長のご挨拶で研究会は閉会となりました。

その後、出席者のほぼ全員がそのまま参加しての偲ぶ会へと進みました。平松茂実会員（元会長）による献杯の後、およそ2時間にわたり森俊治先生をお偲びしての会食となりました。

多くの会員諸氏のご参加により、盛会の内に終了できましたことを深謝いたします。

(文責：地代 憲弘)

新 入 会 員

4月以降、11名の方々の入会が理事会にて承認されました。

| | | |
|---------|---------------------|------|
| 李 捷生 | 大阪市立大学大学院 創造都市研究科 | 正会員 |
| 許 琇秀 | 拓殖大学 商学部 | 正会員 |
| 石井 成美 | 愛知工業大学 経営学部 | 正会員 |
| 下左近 多喜男 | 大阪工業大学 工学部 | 正会員 |
| 山口 尚美 | 明治大学 研究・知財戦略機構 | 院生会員 |
| 今道 幸夫 | 大阪市立大学大学院 創造都市研究科 | 院生会員 |
| 藤本 良介 | 関西大学大学院 総合情報学研究科 | 院生会員 |
| 孫 維建 | 愛知工業大学大学院 経営情報科学研究科 | 院生会員 |
| 庵 ショウ明 | 愛知工業大学大学院 経営情報科学研究科 | 院生会員 |
| 津川 礼至 | 大阪市立大学 創造都市研究科 | 院生会員 |
| 砂山 七郎 | 大阪市立大学大学院 創造都市研究科 | 院生会員 |

北海道部会 活動報告と予定

1. 研究会

第1回研究会 7月10日(土) 13:00~18:00 於：北海学園大学7号館 D101 教室

(1) 佐藤 浩史氏 (北海学園大学大学院 博士課程)

「日本企業経営者の戦略志向の考察～戦略論と経営者における意思決定の傾向との対比から～」

(2) 鴨田 秀一氏 (北海道機械工業会 企業間連携マネージャー 室蘭工業大学 客員教授)

「道内ものづくり企業の現状と地域産業のあり方」

(3) 高井 俊次氏 (室蘭工業大学大学院 教授)

「見えない技術の伝承：実践論的転回の視点から～応用地質の技術伝承を巡って～」

運営委員会 (17:00~17:30)

懇 親 会 (18:00~)

(参考) 日本生産管理学会 北海道・東北支部と共催いたしました。

2. 見学会

工場見学 (苫小牧市等を検討中) 11月を予定

(参考) 日本生産管理学会 北海道・東北支部と共催の予定です。

東日本部会・グローバルゼーション研究分科会

<重慶・成都企業視察研究発表会>

5月8日(土)午後1時30分より、中央大学後楽園キャンパス31000号室(新3号館10階)において、東日本部会とグローバルゼーション研究分科会の共催で、重慶・成都企業視察研究発表会を行いました。報告者とタイトルは、次の通りです。

- (1) 那須野公人 氏(作新学院大学)
「米金融危機後の重慶・四川の経済及び企業の状況」
- (2) 中島 洋行 氏(作新学院大学)
「日本企業現地法人の原価管理ー重慶・成都のケースー」
- (3) 亀谷 祥治 氏(日本大学大学院)
「重慶市の投資、ファイナンス環境及個別進出企業に関するー考察」
- (4) 野村 重信 氏(愛知工業大学)
「グローバルゼーション環境下の中小企業の形態変化ー創業からみた中国中小企業の場合ー」
- (5) 佐久間英俊 氏(中央大学)
「中国における企業経営ー09年夏の重慶・成都視察からー」
- (6) 劉 仁傑 氏(台湾東海大学)
「中国における縫製工場の生産革新ー台湾系企業と日系企業のケース・スタディー」

中部部会活動報告

1. 研究会

日時:平成22年3月13日(土)13:30~17:00

場所:東海機器工業株式会社本社 4階多目的ホール

【プログラム】

事例1 加藤眞吾 氏(株式会社ニデック)「我が社の改善活動」

事例2 北川 豊 氏(上田石灰製造(株))「我が社の5S活動」

事例3 山田晃寛 氏・野村重信 氏(愛知工業大学)「5Sの体系化」

(参考)共催:NPO法人中小企業マネージャー育成塾

2. 見学会

日時:平成22年2月19日(金)13:00~

見学先:トヨタ自動車 元町工場、トヨタ会館

(参考)共催:NPO法人中小企業マネージャー育成塾

工業経営研究学会 学会通信69号(10-8) 2010.8.1

発行人 貫 隆夫 編集担当 那須野公人

学会事務局 明治大学 商学部 風間信隆

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

明治大学駿河台研究棟 839号室

E-Mail nobutaka@kisc.meiji.ac.jp

ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/asimj/index.html>